

三洋貿易株式会社

2014年9月期決算説明資料

2014年11月28日



目次

第一部 2014年9月期連結決算実績

第二部 2015年9月期連結業績予想

第三部 中長期戦略

APPENDIX 会社説明資料

第一部

2014年9月期連結決算実績

2014年9月期 サマリー

- 5期連続最高益を更新、経常利益率も上昇
- 自動車向け合成ゴム・副資材が好調
- 自動車向け機能性部品が好調
- 子会社での資源エネルギー分野が引き続き好調
- インドネシアに現地法人を設立。グローバル展開の推進継続
- 年間配当を4円増配し、34円へ

2014年9月期 連結決算実績

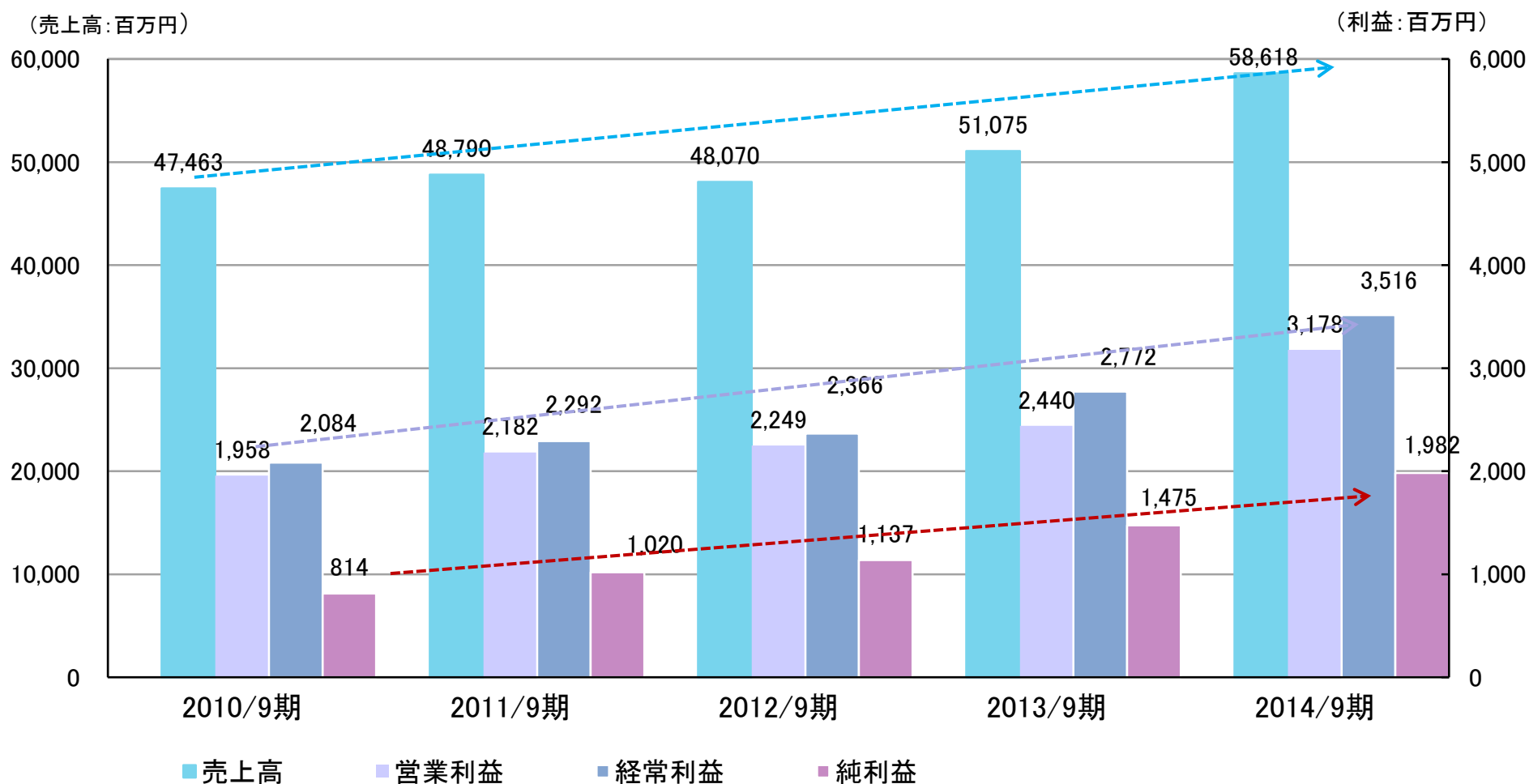
- 増収効果と販管費比率の低下により増益

(単位:百万円)

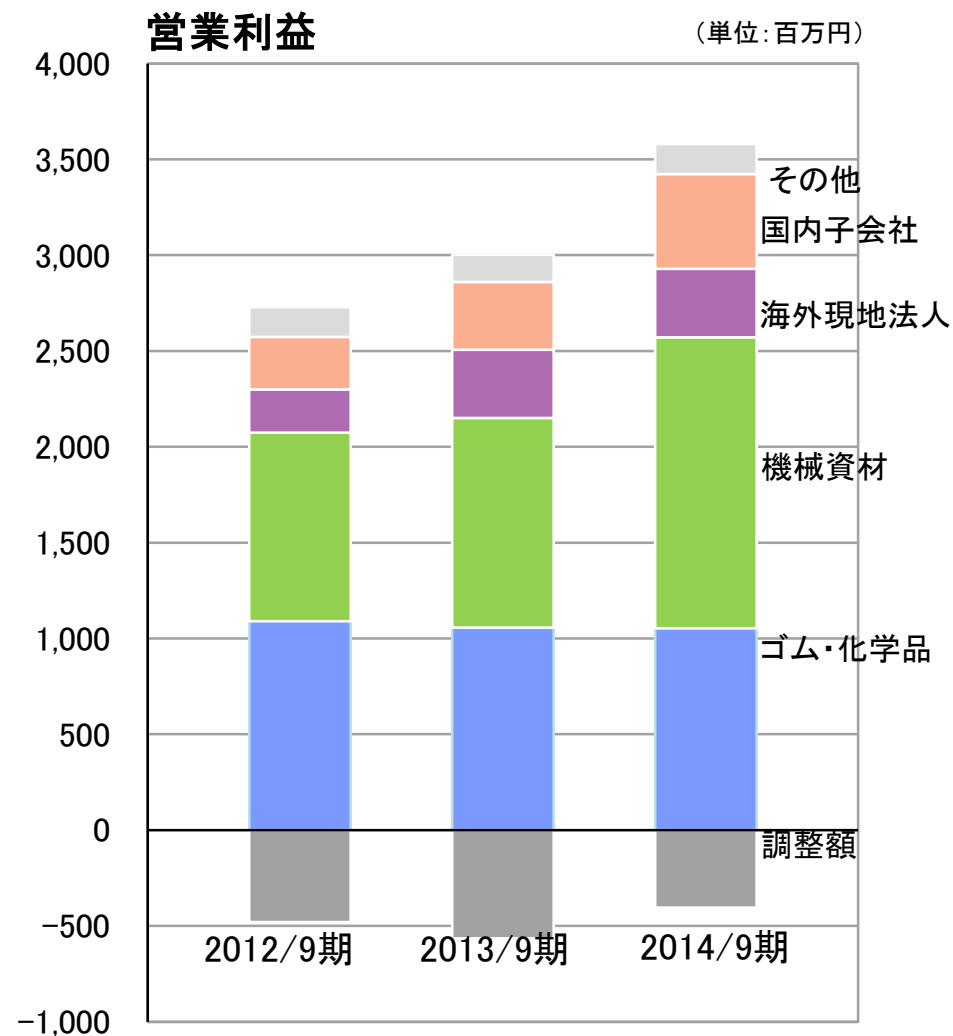
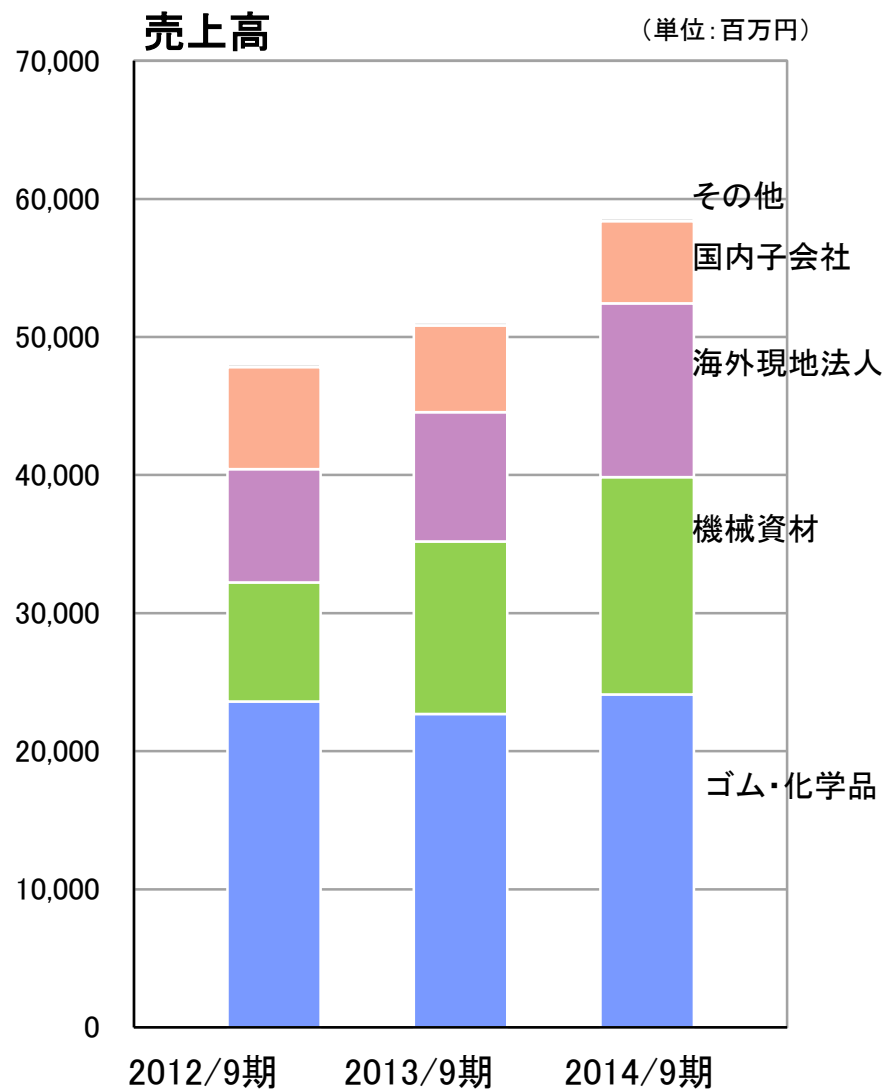
	2013年9月期			2014年9月期		
	金額	構成比(%)	前期比 増減率(%)	金額	構成比(%)	前期比 増減率(%)
売上高	51,075	100.0	6.3	58,618	100.0	14.8
売上総利益	7,671	15.0	2.8	8,659	14.8	12.9
販売費及び 一般管理費	5,230	10.2	0.4	5,480	9.3	4.8
営業利益	2,440	4.8	8.5	3,178	5.4	30.2
経常利益	2,772	5.4	17.2	3,516	6.0	26.9
当期利益	1,475	2.9	29.7	1,982	3.4	34.4

売上・利益推移

- 機械資材セグメントが引き続き好調のほか、国内子会社セグメントの利益が大幅伸長
- 安定成長を継続



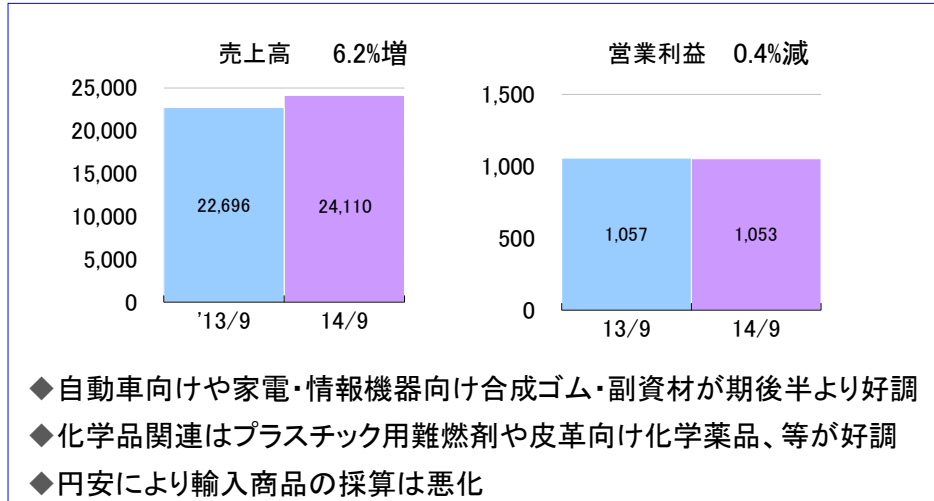
セグメント別 売上・営業利益推移



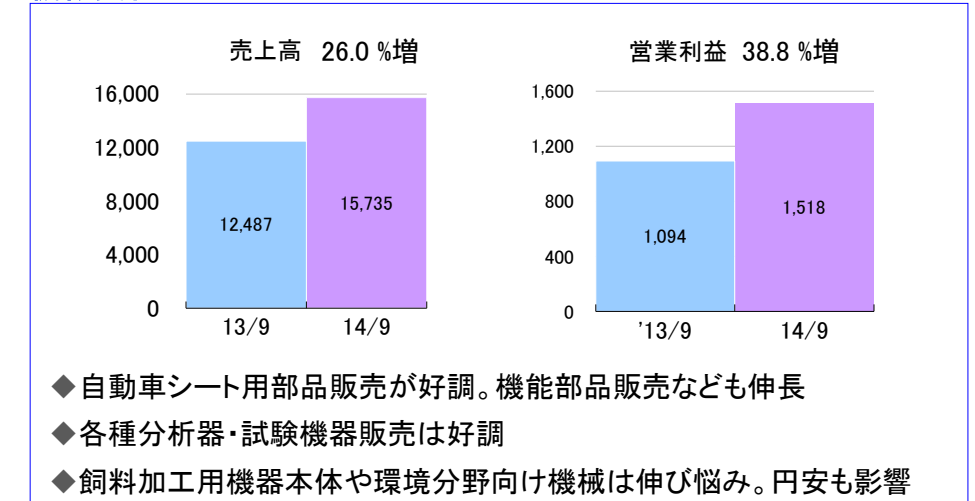
2014年9月期 セグメント別 売上・利益の変動要因

(単位:百万円)

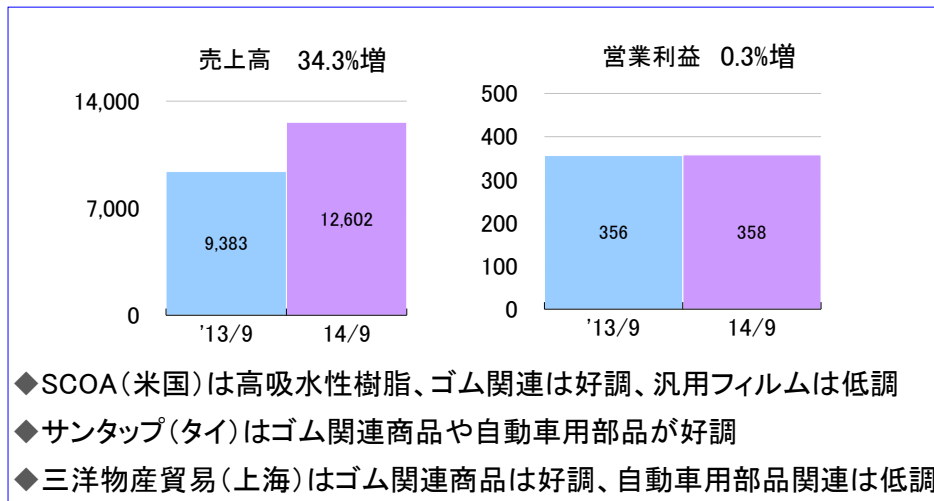
<ゴム・化学品>



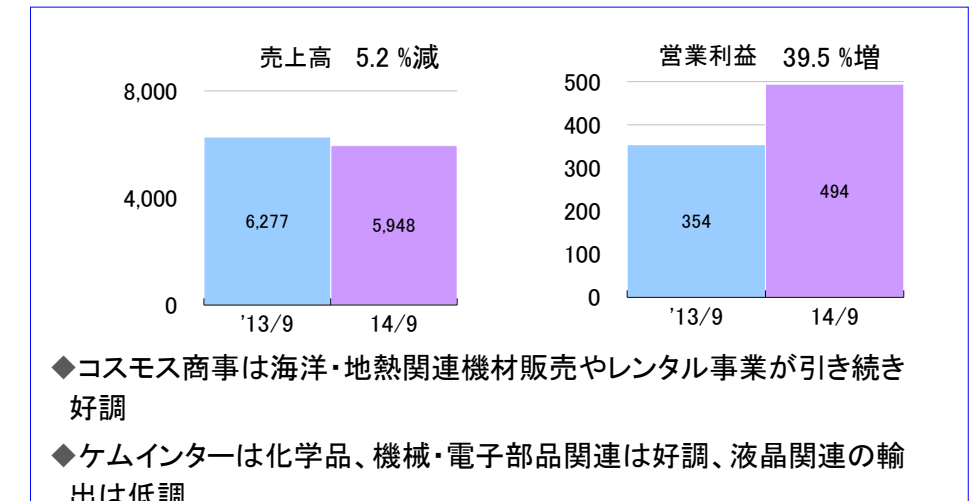
<機械資材>



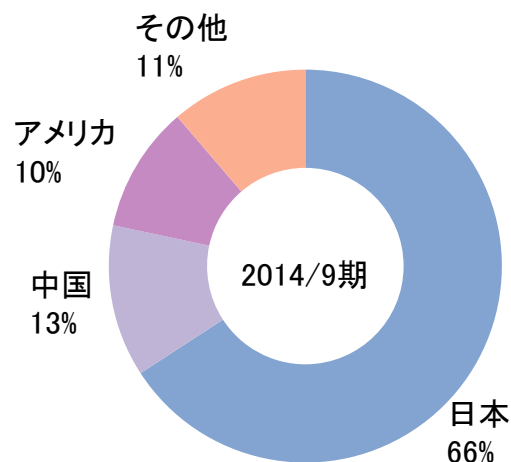
<海外現地法人>



<国内子会社>

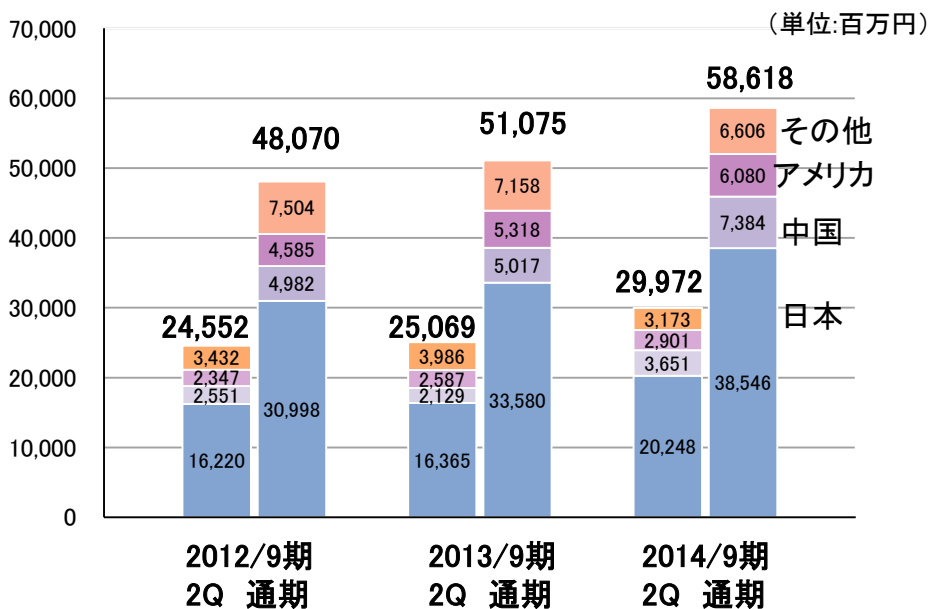


地域別 売上推移



(単位:百万円)

地域別実績			
2014年9月期			
	金額	構成比(%)	前期比増減率(%)
日本	38,546	65.8	14.8
中国	7,384	12.6	47.2
アメリカ	6,080	10.4	14.3
その他	6,606	11.2	△7.7
合計	58,618	100.0	14.8

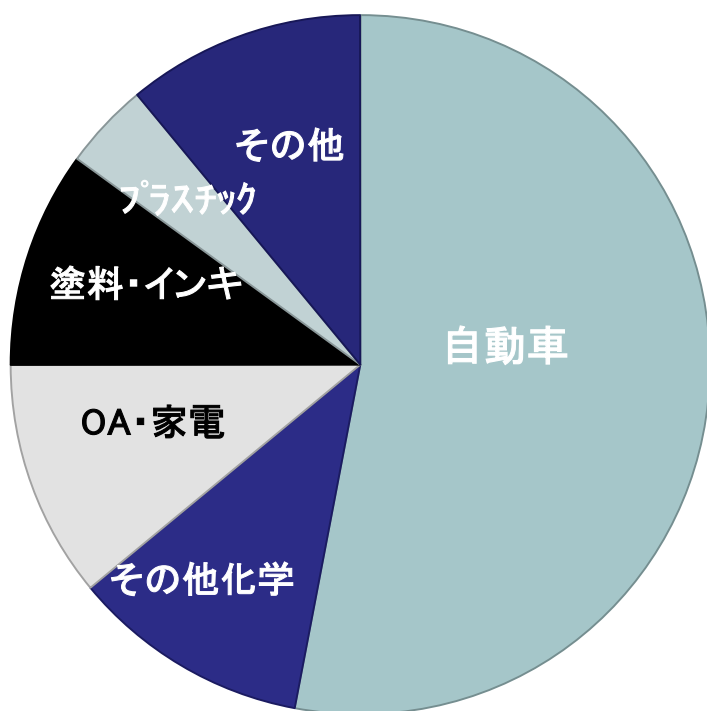


変動要因

- 日本: ゴム関連商品、自動車用部品、資源エネルギー開発用機材が好調
- 中国: ゴム関連商品、自動車用部品が好調
- アメリカ: 高吸水性樹脂、ゴム関連商品が好調も、汎用フィルムは低調
- その他: タイはゴム関連商品や自動車用部品が好調も、韓国向け液晶関連が低調

業界別・販売先別・売上構成比

2014年9月期（単体ベース）



主な販売先（単体ベース）

- 1 トヨタ自動車
- 2 トヨタ紡織
- 3 日本発条
- 4 LIXIL
- 5 Gentherm
- 6 住友理工
- 7 KYB
- 8 横浜ゴム
- 9 ポリプラスチックス
- 10 藤倉ゴム

2014年9月期 連結貸借対照表①

(単位:百万円)

	2013年9月期	2014年9月期	増減額
流動資産	20,038	24,624	4,585
現金及び預金	1,818	3,494	1,675
受取手形及び売掛金	11,958	13,850	1,891
たな卸資産	5,198	6,467	1,268
その他流動資産	1,062	811	△250
固定資産	5,143	5,426	283
有形固定資産	2,100	2,121	21
無形固定資産	72	75	3
投資その他の資産	2,970	3,229	259
投資有価証券	2,251	2,476	225
資産合計	25,181	30,051	4,869

2014年9月期 連結貸借対照表②

(単位:百万円)

	2013年9月期	2014年9月期	増減額
流動負債	8,692	11,884	3,192
支払手形及び買掛金	6,699	8,021	1,321
短期借入金	780	1,341	560
その他流動負債	1,211	2,522	1,310
固定負債	1,150	1,213	62
長期借入金	50	100	50
その他固定負債	1,100	1,113	12
負債合計	9,842	13,097	3,254
株主資本	14,343	15,702	1,358
その他の包括利益累計額	556	730	174
新株予約権	-	17	17
少数株主持分	438	502	63
純資産合計	15,338	16,953	1,614
負債純資産合計	25,181	30,051	4,869

2014年9月期 キャッシュ・フロー計算書

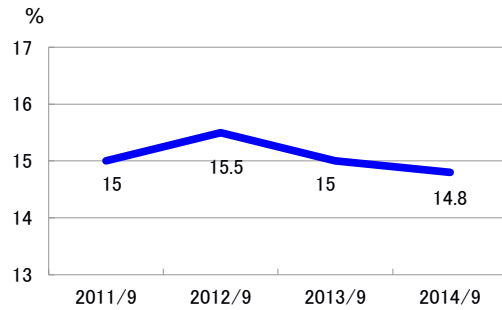
(単位:百万円)

	2014年9月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,106
投資活動によるキャッシュ・フロー	△385
財務活動によるキャッシュ・フロー	△82
現金および現金同等物の増減額	1,675
現金および現金同等物の期首残高	1,815
現金および現金同等物の期末残高	3,490

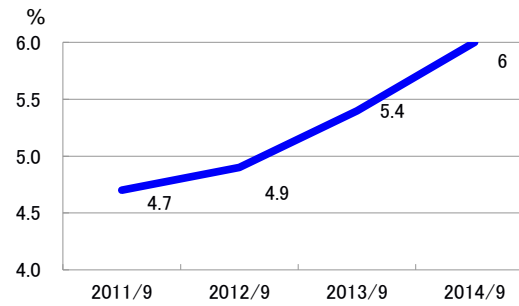
財務比率の推移

- 経常利益や当期利益の増加により、ROAやROEは継続的に上昇

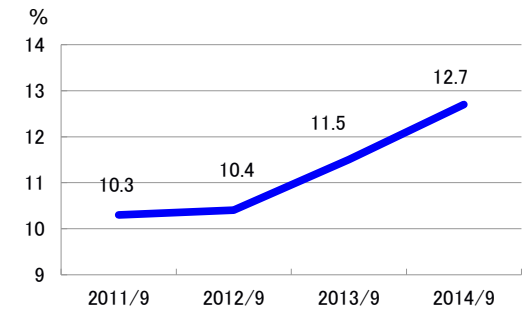
売上高総利益率



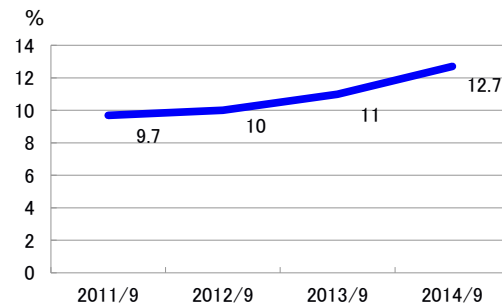
売上高経常利益率



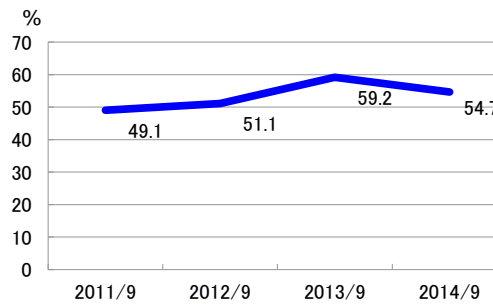
総資産経常利益率 (ROA)



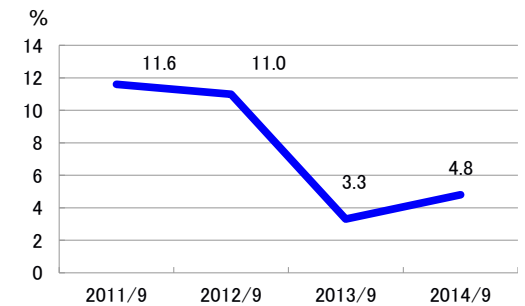
自己資本利益率 (ROE)



自己資本比率



有利子負債依存度



第二部

2015年9月期業績予想

2015年9月期 業界環境と具体的施策

- 自動車業界
 - 自動車部品のグローバル調達と最適地生産の流れ
 - 施策: 当社海外拠点との連携を密にし、現地主義で対応
- ゴム関連業界
 - 自動車業界のグローバル化に伴い、ゴム関連業界もグローバル展開が継続
 - 国内市場においての急激な円安による輸入コストの上昇
 - 施策: アセアン、インド、中国及び北米での海外拠点との連携強化
 - 施策: 国内市場における輸入材料の価格見直し
- 化学品関連業界
 - 化学品関連業界の材料、素材のSpecialtyとCommodityの分化
 - 国内市場においての急激な円安による輸入コストの上昇
 - 施策: 独自性のある特殊化学品の取扱いとインド、中国を含めたCommodity品の供給ソース確保
 - 施策: 円安を利用した化学品の輸出促進
- 新規商材
 - 資源エネルギー : 木質バイオマス、海洋・地熱関連機材
 - 生活関連 : 医薬中間体・原体、医療用関連資材、バイオ・食品検査機器
 - 環境関連 : 太陽光発電関連資材、環境対応型各種ケミカル

2015年9月期 連結業績予想

- ゴム・化学品の堅調な成長に加え、海外や機械資材の好調を主因として、6期連続増益の見込み

(単位:百万円)

	実績			予想		
	2014年9月期			2015年9月期		
	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)
売上高	58,618	100.0	14.8	62,000	100.0	5.8
売上総利益	8,659	14.8	12.9	9,000	14.5	3.9
販売費及び 一般管理費	5,480	9.3	4.8	5,700	9.2	4.0
営業利益	3,178	5.4	30.2	3,300	5.3	3.8
経常利益	3,516	6.0	26.9	3,600	5.8	2.4
純利益	1,982	3.4	34.4	2,100	3.4	5.9

2015年9月期 セグメント別 売上予想

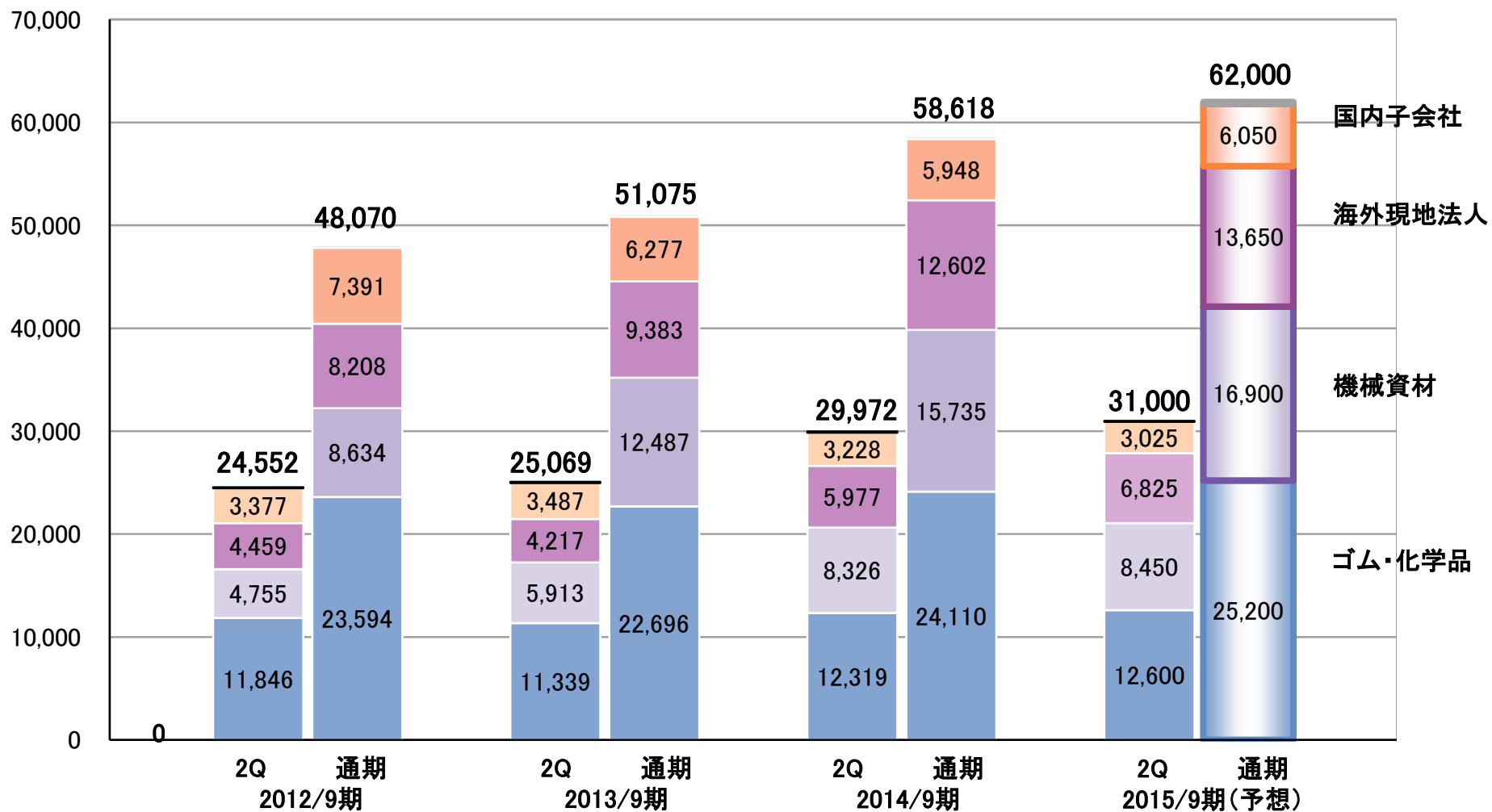
- ゴム関連商品は堅調に伸びる見込み
- 自動車用部品は引続き好調見込み。環境関連機械にも期待
- 海外では、ゴム関連商品や自動車用部品が引続き好調見込み

(単位:百万円)

	実績			予想		
	2014年9月期			2015年9月期		
	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)	金額	構成比 (%)	前期比 増減率 (%)
ゴム・化学品	24,110	41.1	6.3	25,200	40.6	4.5
機械資材	15,735	26.8	26.0	16,900	27.3	7.4
海外現地法人	12,602	21.5	34.3	13,650	22.0	8.3
国内子会社	5,948	10.1	△5.2	6,050	9.8	1.7
その他	234	0.5	0.8	200	0.3	△14.5
合計	58,618	100.0	14.8	62,000	100.0	5.8

セグメント別売上推移(実績および予想)

(売上高:百万円)



第三部 中長期戦略

中期経営計画(まとめ)

1 新規ビジネス開発

- 新規事業領域に向けた新商材の開発(各事業部門)

領域

- グリーンイノベーション領域
- ライフイノベーション領域

2 海外展開(グローバル展開)

主力部門

- ゴム・化学品部門
- 産業資材部門

拠点

- アセアン・インドを中心にアジア展開の強化・拡大
- 米国から中南米への展開を視野

3 M&A・資本提携

中期経営計画の進捗状況

1 新規ビジネス開発その1 環境・資源エネルギー関連(グリーンイノベーション領域)

取組分野	進捗状況
<ul style="list-style-type: none">● 資源・エネルギー開発などの探査、開発と利用に関する技術	<ul style="list-style-type: none">● 地熱発電関連、海洋資源・エネルギー開発関連機材、CO₂の地中貯留プロジェクトの取扱い拡大
<ul style="list-style-type: none">● 木質バイオマス	<ul style="list-style-type: none">● 「木質バイオマス加工・利用システム開発事業」林野庁補助事業参画● ガス化熱電併給装置取扱い開始。木質ペレットとシナジー効果を期待
<ul style="list-style-type: none">● 太陽電池部材	<ul style="list-style-type: none">● 封止材、バックシート、トップシートなどの部材開拓

中期経営計画の進捗状況

1 新規ビジネス開発その2 生活関連(ライフイノベーション領域)

取組分野

- 医薬中間体・原体、医療関連商材

進捗状況

- 米国アセト社との連携強化による医薬中間体商売の拡大と医薬原体(API)商売の開拓継続
- 食品・バイオ関連向け各種分析機器の拡販継続
- 医療関連原材料の拡販継続

中期経営計画の進捗状況

2 海外展開

海外チャンネル強化

- アジア展開の強化

- 北米から中南米への展開

進捗状況

- 2011年のインド、2012年の香港に続き、2013年10月アジアビジネス推進室を設置。タイをハブとしてアセアンとインドへ地域を横断的に業務を推進
- 2014年8月インドネシア現法設立
- 2013年10月メキシコ現地法人(Sun Phoenix Mexico)開設
- 自動車・部品メーカーの進出に伴い商流確保
- 米国子会社との商材連携・水平展開。中南米進出拠点に

中期経営計画の進捗状況

3 M&A・資本提携

目的

- 新規事業分野への進出
- 既存事業とのシナジー
- 人材確保
- グローバル展開の一環

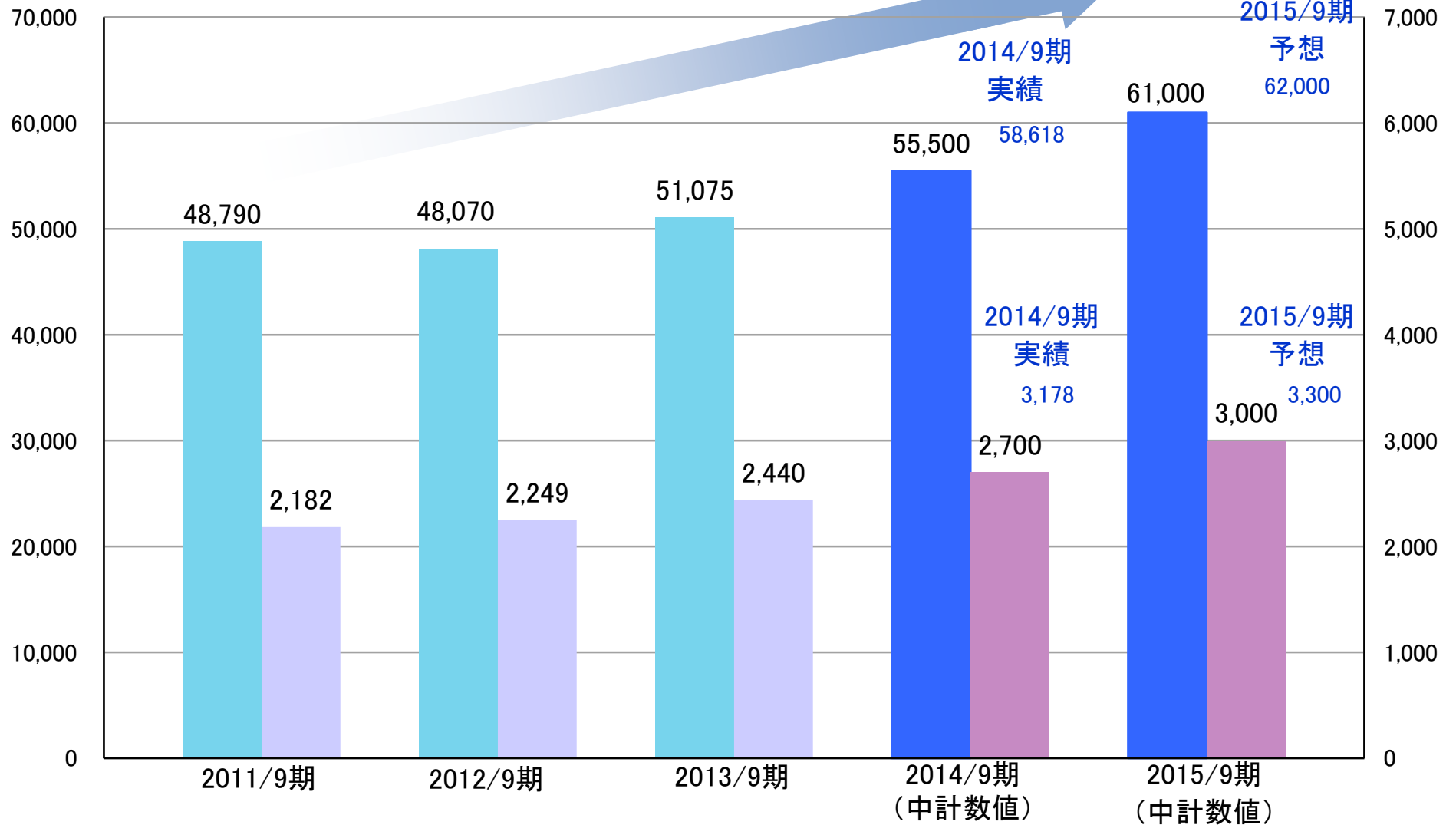
方向性

- ライフサイエンス関連分野
- 環境関連分野
- 資源エネルギー関連分野

中期経営計画(2012年9月公表)

(売上高:百万円)

(営業利益:百万円)

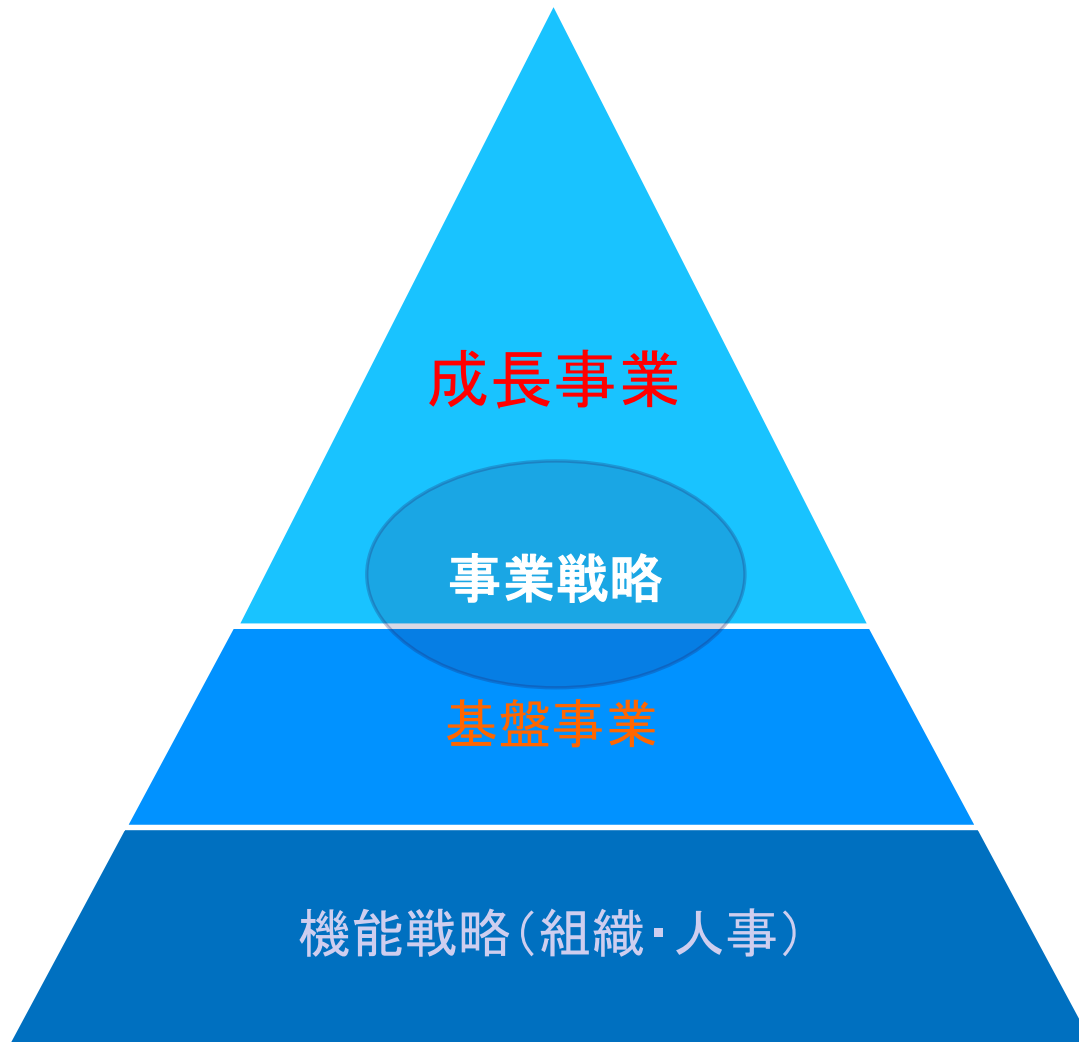


長期ビジョン (VISION2020)

<方針>

- 継続的安定成長を図る
- 強みを活かす
 - 本業に専念する堅実な経営と盤石な財務基盤
 - 67年余の歴史の中で培った販売先・仕入先からの信用と高い対応力
 - ニッチな分野における技術サービスを伴ったきめ細かいセールス活動
 - 北中米・アジアにおける海外拠点網、情報網と取引ノウハウの蓄積
- 社風維持、人材確保・育成を図る
 - 風通しのよい自由闊達な社風を維持する
 - 人材確保・育成を最重要課題の一つと認識し積極的に取り組む
 - 国内外で活躍の場を設け、働き甲斐のある会社を目指す

長期ビジョン (VISION2020)



< 事業戦略 >

< 成長事業 >

- 環境・資源関連分野、ライフサイエンス分野の新規事業への参画
- アセアン+インド、中国、北中米を3大主要市場ととらえ、アジアビジネス推進室/San-Thap International Co.,Ltd.(バンコク)、三洋物産貿易(上海)有限公司,Sanyo Corporation Of America(ニューヨーク)をハブとして、自動車部品、ゴム/化学品原材料取引きの海外展開
- コア事業との相乗効果、将来の成長性・グローバル展開への可能性を持つ投資案件への積極的な取り組み

< 基盤事業 >

- 事業の選択と集中による経営資源の効率的な投下
- 得意分野、コア事業での高付加価値商品への特化

< 機能戦略 >

< 組織 >

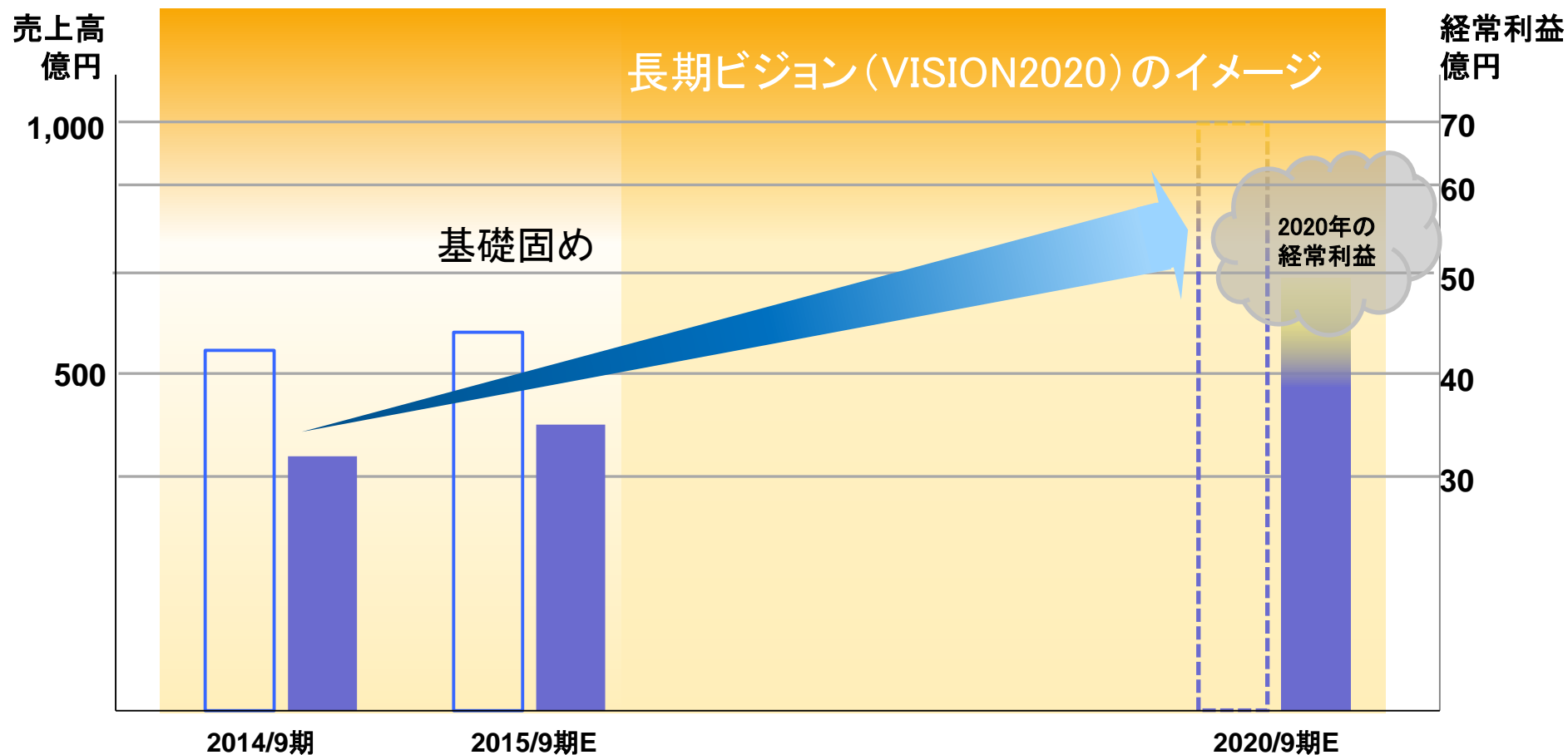
- 成長分野に対応する組織の最適化
- 業容・ポートフォリオの拡大

< 人事 >

- 人材の積極獲得とグローバル展開の強化支援
- 社員教育の充実

長期ビジョン (VISION2020)

- 2020年を目途にした「当社のあるべき姿」を策定
- 連結経常利益を目標指針とする
- 2015年9月期は飛躍への基礎固めの年との位置づけ



注 グラフはイメージ

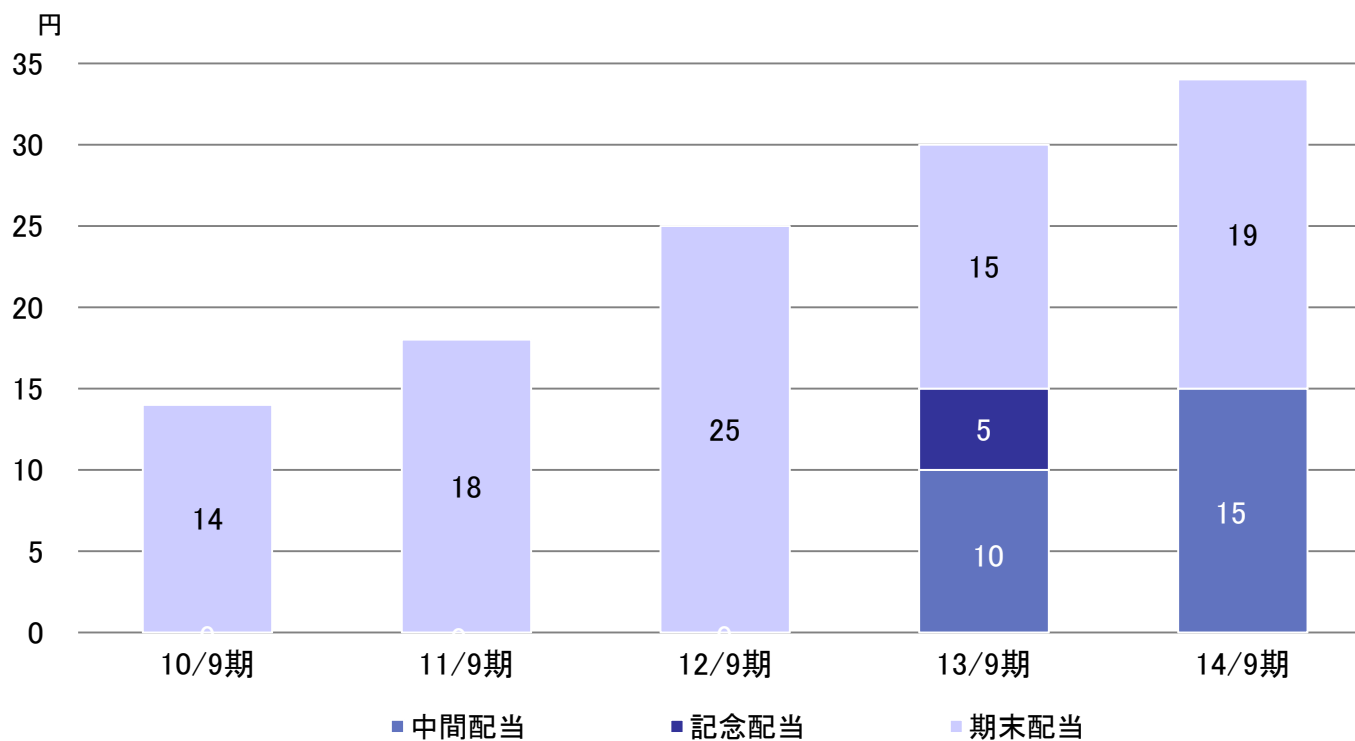
□ 売上高

■ 経常利益

株主還元

- 2014年9月期は、年間34円に増配。過去4期連続増配。
- 配当性向の下限の目途 25%

	1株あたり配当金		
	2Q末	4Q末	合計
2014年9月期	15円	19円	34円



APPENDIX

会社説明資料

1. 会社概要

会社名	三洋貿易株式会社
英文社名	SANYO TRADING CO., LTD.
設立	1947年5月
代表取締役社長	増本 正明
本社所在地	東京都千代田区神田錦町2丁目11番地
事業内容	ゴム、化学品、機械機器、科学機器、自動車部品その他各種商品の輸出入、国内販売を行う市場ニーズの高い商品を取り扱い、技術的サポートを得意とする
拠点	東京、大阪、名古屋、ニューヨーク、デトロイト、上海、天津、広州、バンコク、ホーチミン、ハノイ、ニューデリー、香港、イラプアト(メキシコ)、ジャカルタ(インドネシア)
売上高	58,618百万円 (2014年9月期、連結ベース)
経常利益	3,178百万円 (2014年9月期、連結ベース)
当期純利益	1,982百万円 (2014年9月期、連結ベース)
従業員数	256人 (2014年9月末、連結ベース)

2. 事業形態

ゴム・化学品セグメント

ゴム事業部

化学品事業部

三洋東知(上海) 橡膠



機械資材セグメント

機械・資材事業部

産業資材事業部

科学機器事業部

三洋機械工業(株)

三洋テクノス(株)

国内子会社セグメント

コスモス商事(株)

(株)ケムインター

アロマン(株)

海外現地法人セグメント

北米 中南米

Sanyo Corporation of America

★Sun Phoenix Mexico

アジア アセアン

三洋物産貿易(上海)

○Sanyo Trading India

○三洋物産貿易(香港)

San-Thap International

アジアビジネス推進室

○Sanyo Trading (Viet Nam)

☆PT. Sanyo Trading Indonesia

青色 は連結対象

★ 2013年に設立

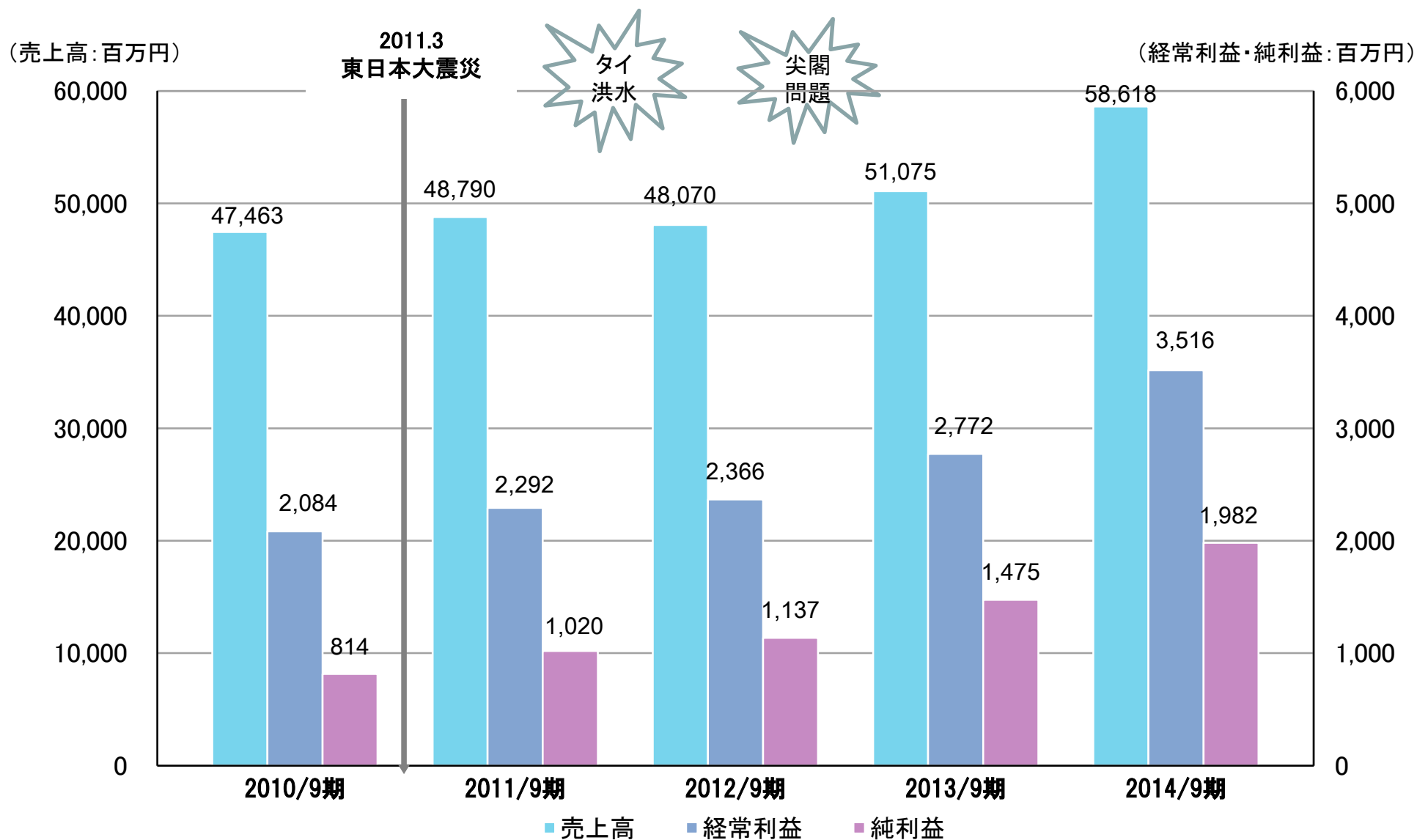
☆ 2014年に設立

3. 沿革

1947年 5月	旧三井物産の解体に伴い、同社神戸支店有志により神戸を本店として資本金195千円をもって三洋貿易株式会社を設立
1948年 5月	東京支店を設置
1952年12月	大阪支店を設置
1954年 1月	ニューヨーク駐在員事務所を開設
1958年 8月	名古屋支店を設置
1961年 2月	ニューヨーク駐在員事務所を Sanyo Corporation of Americaに改組
1961年11月	本店を神戸から東京に移転
1988年 6月	バンコク駐在員事務所を開設
1989年 9月	アムステルダム駐在員事務所を開設
1990年 9月	ハノイ駐在員事務所を開設
1992年10月	ホーチミン駐在員事務所を開設
2002年 8月	上海駐在員事務所を開設
2002年10月	ニューリー・インスツルメンツ株式会社を吸収合併
2003年 6月	バンコク駐在員事務所をSan-Thap International Co.,Ltd.社へ業務移管

2003年12月	上海駐在員事務所を三洋物産貿易(上海)有限公司に改組
2004年 1月	コスモス商事株式会社に資本参加し、発行済株式の100%を取得
2004年10月	株式会社東知との共同出資にて、三洋東知(上海)橡胶有限公司を設立
2006年 4月	三洋テクノス株式会社を設立
2006年10月	株式会社ケムインターに資本参加し、発行済株式の68.52%を取得(現在76.85%)
2009年 3月	アロマン株式会社に資本参加し、発行済株式の100%を取得
2010年 2月	ホーチミン駐在員事務所をSanyo Trading(Viet Nam)Co., Ltd.に改組
2011年12月	インド駐在員事務所(ニューデリー)を Sanyo Trading India Private Ltd.に改組
2012年 2月	三洋物産貿易(香港)有限公司を設立
2012年10月	東京証券取引所 市場第2部に上場
2013年10月	メキシコにSun Phoenix Mexico S.A. de C.Vを設立
2013年10月	東京証券取引所 市場第1部指定
2014年 8月	インドネシア共和国にPT. Sanyo Trading Indonesiaを設立

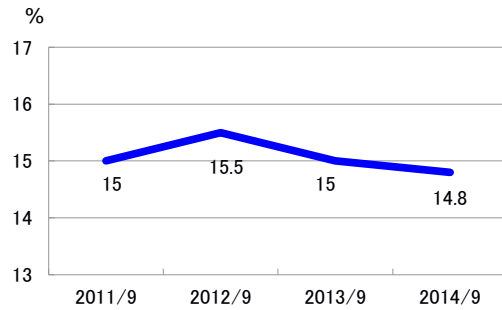
4. 売上・利益推移



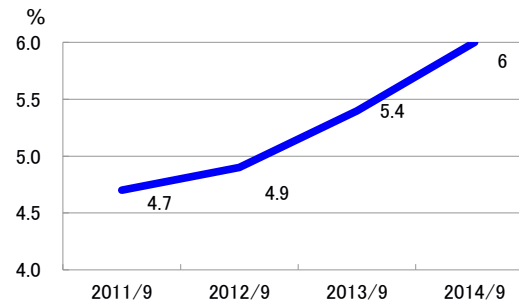
財務比率の推移

- 経常利益や当期利益の増加により、ROAやROEは継続的に上昇

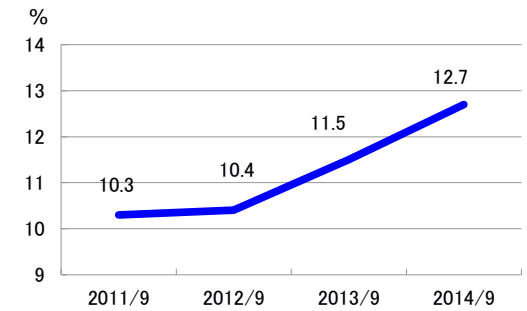
売上高総利益率



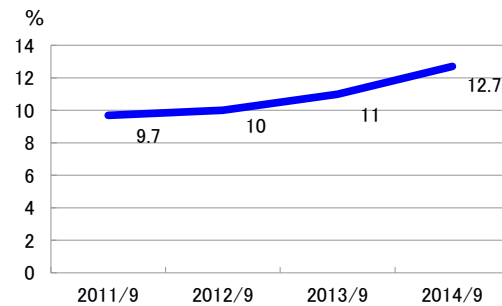
売上高経常利益率



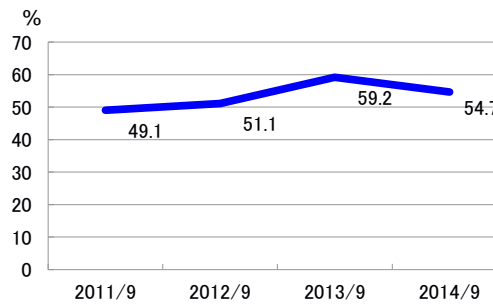
総資産経常利益率 (ROA)



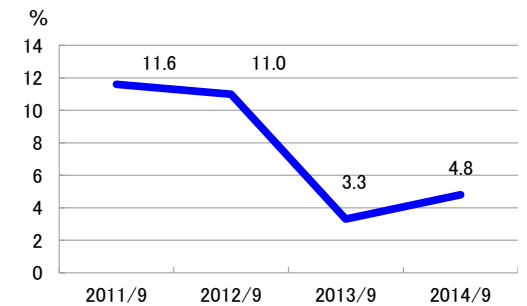
自己資本利益率 (ROE)



自己資本比率



有利子負債依存度



5. 各事業の強みと特徴① ゴム・化学品セグメント1/2

ゴム事業部

主要販売先業界:自動車、情報機器 等

主要用途: タイヤ、自動車部品(内外装部品、防振ゴム、ホース、オイルシール等)、OA部品(各種ロール等)、電機部品(封ロゴム、導電ゴム等)、建材(テープ、シーラント等)ほか

注力分野: 医療器材の原材料

|合成ゴム



|熱可塑性エラストマー・樹脂



|ゴム補強、充填材



<特徴・強み>

- ・1952年 日本で最初に合成ゴムを総代理店として輸入。 ゴム産業に係る幅広い商品の取扱いを手掛けている
- ・取引先は国内タイヤメーカー、工業用ゴム製品製造の主要メーカーをほぼ網羅している
- ・合成ゴム、充填剤等の一般原材料のみならず、特殊ポリマー、配合剤等、多彩な商品を取扱う
- ・技術系営業員によるユーザーへの技術支援、共同開発も可能
- ・安定供給を維持するためのロジスティクス分野でも長い実績と経験を有する
- ・顧客の海外進出にも対応できるネットワークを構築している

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
Lanxess	各種合成ゴム	世界No.1の合成ゴム総合メーカー、幅広い製品群を安定供給
KaMin	特殊クレー	タイヤ、工業用ゴム部品で性能向上と低コスト化を両立させる戦略商品
東レ・ダウコーニング	シリコーンゴム	耐熱性に優れ、OAロール・自動車部品等幅広い用途

5. 各事業の強みと特徴② ゴム・化学品セグメント2/2

化学品事業部	主要販売先業界: 化学、建材、自動車、電子機器 等 主要用途: 塗料、インキ、プラスチック、フィルム、医薬等 注力分野: 医薬中間体、高機能性フィルム	
塗料・インキマーケット	プラスチックマーケット	接着剤マーケット
医薬品マーケット	洗浄剤マーケット	化粧品・潤滑・放熱 マーケット

〈特徴・強み〉

- ・高付加価値のファインケミカルを取り扱う
- ・医薬中間体、太陽電池関連、環境対応型商品など、医薬、エネルギー、環境向けにライフサイエンス商品も展開
- ・優れたロジスティックノウハウでの物流サービス、在庫販売及びきめ細やかな技術サービスを提供
- ・海外仕入先にてトレーニングを受けた営業員による高付加価値商品の提案、用途開発ならびにきめ細かい技術サポート

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
Shamrock	各種ワックス	インキ・塗料用の高性能ワックス
東洋紡	各種フィルム	ナイロン、PET他高機能フィルムの幅広い品揃え

5. 各事業の強みと特徴③ 機械資材セグメント1/3

機械・資材事業部

主要販売先業界: <ペレットミル>飼料、エネルギー、リサイクル
 <ホットメルト及び接着機器>包装 等
 <コールドグルアー>包装 等
 主要用途: <ペレットミル>飼料製造、固形燃料製造、
 <ホットメルト>包装・パッケージング、絶縁、補修
 <コールドグルアー>包装・パッケージング
 注力分野: 木質バイオマス次世代エネルギー開発(林野庁)
 木質ペレットガス化熱電併給装置(取扱開始)



<特徴・強み>

<CPM社製ペレットミル>

- ・日本総代理店として50年以上の歴史
- ・飼料用ペレットミルのシェアは8割以上
- ・メンテナンス部隊による保守点検
- ・ペレットミル自動制御装置のソフト開発および
カスタマイズ化で他社の輸入品と差別化

<ホットメルト>

- ・ガンと接着剤をセットで販売
- ・万全のアフターサービス体制

<コールドグルアー>

- ・段ボール用フォルダーグルアーシェアNo.1

主な仕入先

主な取扱商品

特徴

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
CPM	ペレットミル	飼料、餌料においては固形化により自動給餌が可能 保管と輸送費の節減が可能
TEXYEAR	ホットメルト	豊富な品揃え
Valco Melt	コールドグルアー	高い信頼と実績

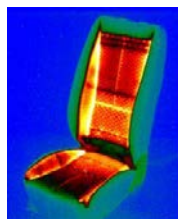
5. 各事業の強みと特徴④ 機械資材セグメント2/3

産業資材事業部

主要販売先業界: 自動車関連
 主要用途: 自動車用内装部品(主として高級車)
 注力分野: エアバッグ用センシングデバイス、空調シート(温・冷風)



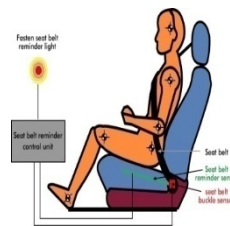
レザーシート



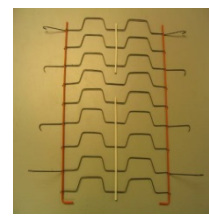
シートヒーター



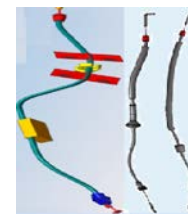
ランバーサポート



シートセンサー



サスペンションマット



シート用ケーブル



シート用モーター

<特徴・強み>

- ・新車の開発段階からデザインの提案や性能開発・改良に参加
- ・量産立ち上げまでの技術をサポート
- ・皮革シートの厳しい納入基準をクリア
- ・契約獲得できればその生産期間は売上が見通しやすい

主な仕入先	主な取扱商品	特徴
GST Autoleather	自動車用の本草	デザインから自動車メーカーと共同開発
Gentherm	シートヒーター	カーボンファイバー仕様の市場を独占
Schukra	ランバーサポート	高い技術力で世界市場6割を占有する

5. 各事業の強みと特徴⑤ 機械資材セグメント3/3

科学機器事業部

主要販売先業界：国立研究所、防衛省、大学、石油、化学、自動車、製薬 等
 主要用途： 研究開発、品質管理、判別、危機管理
 注力分野： バイオセンサー、NBC検出器



<特徴・強み>

- ・防衛省、警察庁、国立研究所、国公立大学など、官公需要比率が高い
- ・海外の先端技術を有する多くのメーカーの優れた商品を国内に輸入、販売を行う
- ・事業部専用の保守サービス会社を保有している
- ・自社ブランド商品の開発と輸入機器のカスタマイズを行う

主な仕入先	主な取扱商品	主な仕入先	主な取扱商品
FALEX	摩擦試験機	Q-LAB	耐候性試験機
SPECTRO INC.	潤滑油劣化診断機器	PICARRO	温室効果ガス・同位体比分析計
PRESENS	非破壊酸素濃度計	ASI	二次イオン質量分析計

5.各事業の強みと特徴⑥ 海外現地法人、国内子会社

海外現地法人

Sanyo Corporation of America (米国)

北米地域

化学品、ゴム原料、自動車関連 などの取扱い

三洋物産貿易(上海)有限公司(中国)

アジア地域

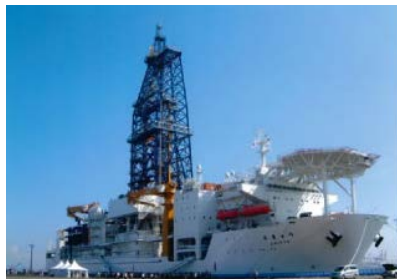
自動車関連、化学品、ゴム原料 などの取扱い

San-Thap International Co., Ltd.(タイ)

国内子会社

コスモス商事

石油ガス開発、海洋開発、地熱開発、温泉開発などの機材の取扱い



〈注力分野〉

海底鉱物資源探査

メタンハイドレート

地震の震源域調査

CO₂ 地下貯蔵

ケムインター

精密化学品、医薬中間体 などの取扱い



〈注力分野〉

液晶・電子材料

精密化学品

アロマン

電子部品、EMS などの取扱い

6.技術サポートと子会社

三洋貿易株式会社(親会社)

- メーカー並の技術的サポートが可能
- 技術系商社として開発段階から参加
- 営業員の40~45%が技術系

1973年 三洋機械工業株式会社設立(機械・資材事業部)

- 機械・資材事業部が販売したペレットミルのアフターサービス
- ペレットミル付帯機器の設計・製造、消耗部品の保管基地
- 伊勢原新工場で木質バイオマス用テストプラントを設置



一層きめ細かいサービスが可能となり、市場占有率の高い商品に貢献

2004年 三洋東知(上海)橡膠有限公司(ゴム事業部、非連結)

- 中国における日系企業向けゴムコンパウンド事業の拠点、80%出資
- ゴムコンパウンドの製造・販売
- 主な用途:自動車、家電、情報機器、建築用ゴム部品



日系進出企業との新規取引、高品質要求先の開拓

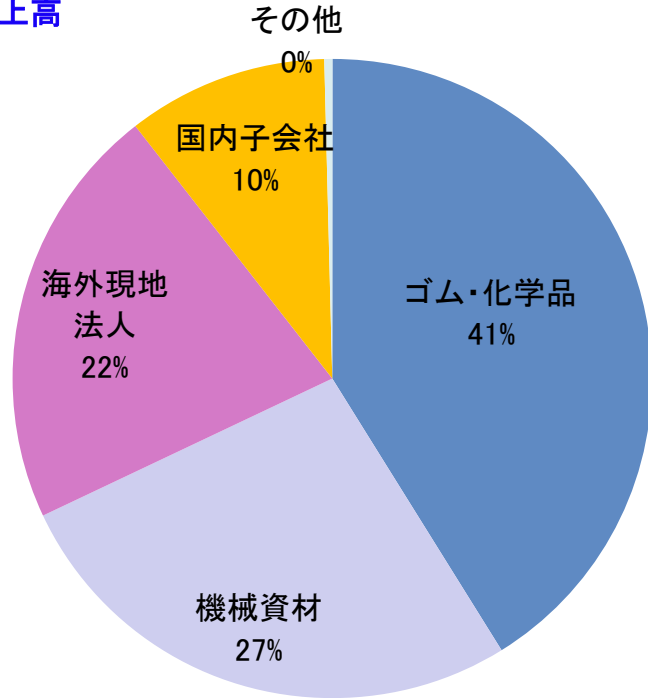
2006年 三洋テクノス株式会社(科学機器事業部、非連結)

- 分析・測定・試験機器の改良、設計、アプリ開発、設置据付、試験運転、トレーニング、検収作業、保守など

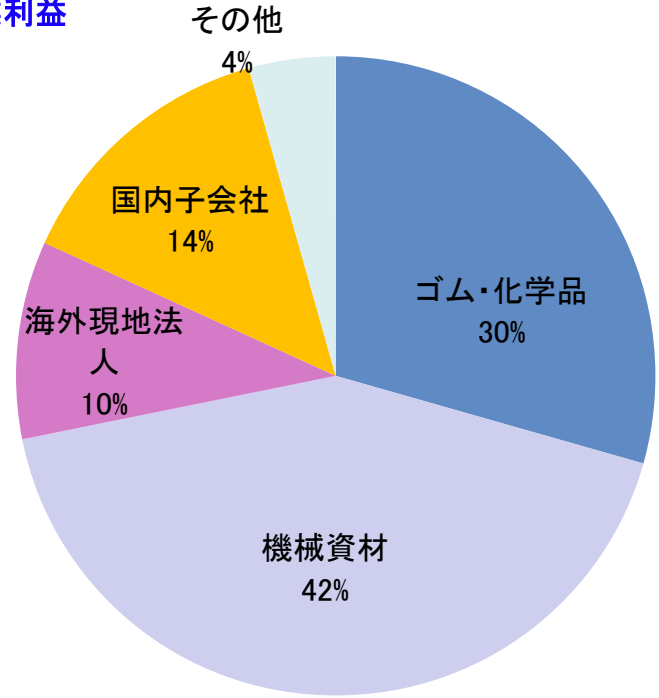


7. 事業ポートフォリオ

売上高



営業利益



セグメント別売上実績

2014年9月期					百万円
ゴム・化学品	機械資材	海外現地法人	国内子会社	その他	
24,110	15,735	12,602	5,948	234	

セグメント別営業利益実績

2014年9月期					百万円
ゴム・化学品	機械資材	海外現地法人	国内子会社	その他	
1,053	1,518	358	494	157	

注) 調整前

ご清聴ありがとうございます

IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 取締役 経営戦略室長 新谷 正伸

電話:03-3518-1010 e-mail:ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。